

1 研究主題

積極的な聞き手を育てる学習指導方法の改善に関する研究

聞き手と話し手が相互に交流する学習活動の工夫を通して

<内容の要約>

本研究では、児童が意欲をもって話を聞き、確実に聞く力を身に付けていくことができるように、聞き手と話し手が相互に交流する活動を設定した。また、指導の手立てとして、聴体・聴型モデルの作成と活用、即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用、モニターによる聞き方の評価活動などを考え、授業実践の中で具体化していった。その結果、聞き取りが正確になり、進んで話を聞こうとする態度や話し手の意図を確実に聞き取り、話の内容について自分なりの意見を積極的に述べる力も育成された。

<キーワード>

(1)小学校国語 (2)交流活動 (3)聴体・聴型モデル (4)メモ指導 (5)モニターによる評価活動

2 主題設定の理由

平成10年12月に改訂された小学校学習指導要領では、これまで国語科の中で別々の領域に位置付けられていた「話すこと」と「聞くこと」が、「A話すこと・聞くこと」の1領域にまとめられた。これは、話す活動と聞く活動は表裏一体のものであり、関連して指導した方が効果的であること、双方向の伝え合う能力の育成が重要視され始めたこと、などによるものである。

「話すこと・聞くこと」は、言語生活を営む上で基本的かつ重要な言語活動であり、情報化・国際化が進む中、相互理解を深め、豊かな人間関係をはぐくんでいく上で必要な力の一つとして、今後、より重視されてくるであろう。

しかしながら、「話すこと」と「聞くこと」の指導の実際を見てみると、本教育センターが平成10年度から2か年にわたって行った県内児童の小学校国語の学習到達度調査及び教師の意識調査では、「話すこと」の指導に比べて、「聞くこと」の指導が十分には行われていないという実態が明らかになった。これは、これまで「話すこと」の指導が中心となり、話す技能を身に付けさせれば付随して聞く態度や能力も向上すると考えられていたことや、実際の場で使うための対話の指導がほとんどなされていなかったことがその要因であると思われる。また、同調査によれば、児童の聞く力に関して、部分的な聞き取りはできているものの、話の全体像をつかみ、話し手の意図を的確に把握することは不十分であるという実態も明らかになった。これらのことから、聞く態度や方法を明示するなど、聞く力を児童に具体的に提示し、それを段階的・系統的に指導していくことや、児童が聞くことの大切さや必要性を感じ、意欲的に聞くことができるような場の工夫などが必要であると考えた。

そこで、本研究では、「話すこと」と「聞くこと」を一体化した活動の中で、児童が意欲をもって情報を吟味しながら聞く力を身に付けていくことができるような学習指導方法を明らかにしたいと考えた。聞き手と話し手が相互に交流する場を設定し、一つ的话题を共に考え、深めていくことができるようにすれば、聞くことへの切実感が生まれ、自ら進んで話を聞こうとするようになるであろう。また、そのことは、聞くことに価値を見だし、聞き取ったことを自分の生活に生かしたり、自分の考えと比べ表現に生かしたりする積極的な聞き手を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

児童の聞く力を高める学習指導方法の改善に向けて、具体的な方策を探る。

4 研究の仮説

音声言語の学習において、児童の学習意欲を喚起するような単元を開発するとともに、聞き手と話し手が相互に交流しながら共に一つ的话题を深めていくことができるような場を設定し、その中で次のような手立てをとれば、聞き取りが確実にになり、進んで聞く態度が育つであろう。

聴体・聴型モデルの作成と活用

即時的な聴解力を高めるキーワードメモ（第1次メモ・第2次メモ）の活用

モニターによる聞き方の評価活動

5 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 対話や聞くことの指導及び聞く力の評価に関する理論研究
- イ 聞くことに関するアンケート調査を基にした児童の実態把握
- ウ 発達段階に応じた対話力を高めるための単元開発を通じた授業実践
- エ 積極的な聞き手の育成に関する研究のまとめ

(2) 研究の方法

- ア 小学校学習指導要領，他県教育センター研究紀要，書籍などを通して，対話や評価に関する理論研究を行う。
- イ 質問紙法による意識調査及び聞く力の到達度調査を実施し，その結果を分析する。
- ウ 聴体・聴型モデル，キーワードメモ，モニターによる評価活動の指導方法に関する教材開発及び単元開発を通じた検証授業を行い，その結果を分析する。
- エ 積極的な聞き手の育成に関する研究の成果と課題を検討する。

6 研究の実際

(1) 聞く力の具体化

ア 聞く力とは何か

高橋俊三は、「きく」という言葉に「聞く」「聴く」「訊く」という漢字を当てはめ，それらを関連付けた段階的な指導の必要性を説いている。

「聞く」とは，自然に聞こえてくる音を聞く状態である。英語に当てはめれば，“hear”である。……「聴く」とは，注意して聞くこと，傾聴の姿である。“listen”に相当する。「聞く」は受動的であるが，「聴く」は能動的で積極的な言語行動である。……「訊く」とは，訊ねること，質問することである。……質問“ask”“question”に留まらず，インタビュー“interview”にまで発展する。まさに積極的な行動である。⁽¹⁾

また，妹尾政子は，聞く力を「受容」「理解」「自己確立」「創造的転成」の4つの段階に分け，それぞれの段階で必要な力を以下のように述べている。

「受容」は，聞こうとする態度に支えられるもので，相手の話を正しく聞く能力
「理解」は，意味・内容を聞き取る段階で，相手の話を正しく聞く能力
「自己確立」は，聞いて自分自身の意見をもつ段階で，自分なりの考えをもちながら聞く能力
「創造的転成」は，聞き手自身の変革にとどまらず話し手や他の聞き手の変革もするという段階で，自分自身や相手の立場を展開させるように聞く能力⁽²⁾

両者に共通するのは，聞く力を内的活動だけにとどめず，聞いたことについて質問したり，意見を述べたりするなどの表現活動まで含めてとらえているという点である。

本研究では，これらの理論を参考に，聞く力を次のようにとらえる。

受容（聞き容れる）の段階・・・相手の話を聞こうとする行動力（動作，表情，視線，態度）
理解（聞き取る）の段階・・・話の内容を的確に聞き取る力
発信（聞き返す）の段階・・・話された内容を基に，自分なりの感想や意見を述べる力

受容の段階は，非言語メディアに相当する部分である。森久保安美は，マジョリー・F・バーガスの行った研究を例に挙げ，「2人が対話していて，お互いに伝わり合うメッセージの総量を100とした場合，言語によって伝えられるのは35%に過ぎず，65%は，非言語メディアによって伝えられるといわれる。……これら非言語メディアについてもそれなりの関心をもたせ，適切な工夫をするようにしたいものである⁽³⁾」と述べ，非言語メディアを指導することの重要性を指摘している。

理解の段階には，メモを取る力も含めることにした。音声言語指導大事典によれば，メモには「備忘，理解を深める，聞き手自身の意見や考えを生み出す，表現に備える，話し方や話の内容・組立てなどを評価する⁽⁴⁾」などの機能がある。小学校学習指導要領（平成10年12月告示）の国語科第3学年及び第4学年の言語活動例にも「要点などをメモに取りながら聞くこと⁽⁵⁾」と位置付けられているように，聞く力を育成していく上で重要な指導内容であると考えられる。

発信の段階は，話された内容を基に自分なりの考えを構築し，それを他者に向かって積極的に伝えようとする段階である。話された内容についての確認，質問，感想，意見などを含む。

イ 聞く力系統表

小学校学習指導要領国語科（平成10年12月告示）の指導内容，音声言語大事典の聞くこと能力表⁽⁶⁾，

森久保作成の聞く力のあらまし⁽⁷⁾を参考に、聞く力を各段階ごとに具体化し、6年間を見通した系統表を作成した。

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
A 受 容 … 聞 き 容 れ る	1 聞く構えをもつ。 2 相手意識をもつ。 聞き手の発する非言語メディア (動作) アうなずく。 イ相づちを打つ。 ウ手を打つ。 エ身を乗り出す。	1 話し手に反応しながら聞く。 2 目的意識をもつ。 (表情) ア笑顔で。 イ目を丸くする。 ウ目を細める。	1 話し手が話しやすい雰囲気をつくる。 2 相手意識、目的意識を常にもちながら聞く。 (視線) ア話し手を見る。 (態度) ア話を最後まで聞く。 イ自分が話すときは、話し手に許可を受ける。
B 理 解 聞 き 取 る	1 敬体と常体の違いに気を付けて聞く。 2 行動、時間、作業等の順序に気を付けて聞く。 3 話の大体の内容を聞き取る。 4 大事なことを落とさないように聞く。 5 順序を表す接続語に着目して聞く。 6 自分の経験と結び付けて聞く。	1 話し手が工夫している言葉遣い(丁寧な言葉、敬体と常体の使い分け、声量や速度、共通語と方言、言葉遊び)に着目して聞く。 2 事実と感想、意見を区別しながら聞く。 3 話し手と自分の経験や感想、意見の共通点、相違点を考えながら聞く。 4 話の組み立て方に着目して聞く。 5 話のまとまりに着目して聞く。 6 話の中心を考えながら聞く。	1 話す相手や目的、場に応じた言葉遣いの工夫に着目して聞く。 2 事実と感想、意見との関係を考えながら聞く。 3 資料や例示の活用と工夫に着目して聞く。 4 話の結論や山場の位置付けの工夫に着目して聞く。 5 効果的な話の組み立て方の工夫に着目して聞く。 6 話の内容の不足している点を考えながら聞く。 7 複数の感想や意見の共通点、相違点を考えながら聞く。 8 意見の適否を考えながら聞く。 9 必要な情報を選んで聞く。 10 話し手の意図をつかみながら聞く。 (動作) ア姿勢を正す。 イ身振り手振り。 (表情) ア真剣に。 イ明るく。 ウ目を見開く。 (視線) ア聞き手を見る。 イ聞き手を見渡す。 (態度) アゆっくり話す。 イはっきり話す。 ウ大事なことは繰り返す。 エ大事なことは強調する。
メ モ	【第1次メモ】話を聞きながらメモを取る(話を聞いた後に取る場合もある)。 7 話題をメモする。 8 3W1Hをメモする。 9 大事な言葉をメモする。 【第2次メモ】話を聞いた後、メモを取る。 10 話の大体をつかみ、「~のこと」「~について」「~の話」などの形にまとめる。	【第1次メモ】話を聞きながらメモを取る。 7 話題をメモする。 8 5W1Hをメモする。 9 話のまとまりごとに分けてメモする。 10 話の内容を簡条書きにしてメモする。 11 話し手が強調している言葉をメモする。 【第2次メモ】話を聞いた後、メモを取る。 12 話のまとまりごとに要点を書く。 13 話のまとまりや組立てを矢印や記号等を用いて整理する。 14 話の中心箇所を詳しくメモする。 15 自分の感想や疑問点等を書き添える。	【第1次メモ】話を聞きながらメモを取る。 11 話のまとまりをつかみ、数字や枠囲み等を用いて区分しながらメモする。 12 キーワードとなる言葉や自分にとって大切だと思う言葉をメモする。 13 話のまとまりごとに要点を考えながらメモする。 14 情報を選んでメモする。 15 目的や場、状況に応じて、軽重を付けてメモする。 16 自分なりのメモの取り方を工夫する。 【第2次メモ】話を聞いた後、メモを取る。 17 話のまとまりごとに小見出しを付ける。 18 自分の考え等を書き添える。 19 メモが活用できるように整理する。
C 発 信 聞 き 返 す	1 聞き取れなかった事を尋ねる。 2 聞き取ったことを確かめる。 3 分からなかったことを尋ねる。 4 自分の知りたいことを尋ねる。 5 話されたことについて感想をもつ。	6 話された内容について、更に詳しく聞き出す。 7 話された内容について、同意を示したり、反論したりする。	8 判断や意見の根拠や理由を確かめる。 9 話された内容を基に、自分の考えを補強したり修正したりする。 10 複数の意見をまとめ、合意点を見いだす。

(2) 聞く力についての児童の実態

本研究で検証授業を行う2学級(2年生32名, 3年生40名)を対象に、平成12年10月(3年生)・平成13年10月(2年生)に意識調査と聞く力の到達状況調査を行った。

ア 聞くことについての児童の意識調査

意識調査の結果、2年生・3年生共にほとんどの児童が話を聞こうとする姿勢をもっているが、積極的に聞こうとする意欲をもつまでには至っていないことが分かった。授業中の質問については、2年生・3年生共に約半数の児童が質問することに消極的であり、質問する必要性や切実感のある場を設定して意欲を喚起したり、質問の仕方について指導したりするなどの工夫が必要であることが分かった。また、一つの話題についてお互いに話したり聞いたりする中で考えを深めていくことができるような場を設定する必要があること、さらに、非言語メディアについても十分に意識化されていないので、重点的に指導していく必要があることが分かった。

イ 聞く力の到達状況調査

伝達内容を正確に聞き取る力では、おおむね良好な結果となったが、重要語句の把握については、メモ指導などと関連付けながら指導していく必要がある。伝達内容を自分の立場を基に聞き取る力では、無回答が多かった。受動的に話を聞くだけでなく、自分の立場から積極的に聞き取るようとする態度を育成していく必要がある。伝達内容について感想や意見をもつ力では、2年生で26人(81%)、3年生で35人(88%)の児童が話の内容について感想をもつことができた。感想の内容は、聞き手に対する共感や情報に対する驚きといったものが多かった。伝達内容を自分なりに判断し、反応する力では

「話し手にどのような質問をするか」について記述させたが、2年生で1人当たりの平均質問項目数が1.2個、3年生で1.9個と少なかった。質問内容は、話の内容を広げる方向性のものがほとんどで、一つ的话题を深めていくという方向性のものは少なかった。このことから発信段階での指導を充実させ、積極的に聞き返したり、一つ的话题を話し手と共に深めていこうとしたりする態度を育成していく必要がある(表1)。

表1 問題構成表及び通過率

		通過率...設定した到達水準を満たした者の割合		
観 点	項 目	2年生の通過率	3年生の通過率	
a 伝達内容を正確に聞き取る力	(a) 期日の正確な把握	9 7 %	9 8 %	
	(b) 人物の正確な把握	9 4 %	9 8 %	
	(c) 話の構成の理解	5 3 %	8 7 %	
	(d) 重要語句の把握	2 2 %	4 5 %	
観 点	項 目	通過率	無回答	不適切な回答
b 伝達内容を自分の立場を基に聞き取る力 3年生のみ実施	(a) 話の内容と同じ点	6 2 %	3 5 %	3 %
	(b) 話の内容と違う点	7 0 %	3 0 %	0 %
観 点	項 目	通過率	無回答	不適切な回答
c 伝達内容について感想や意見をもつ力	話の内容に対する感想や考え	(2年) 8 1 %	6 %	1 3 %
		(3年) 8 8 %	7 %	5 %
観 点	項 目	1人当たりの平均質問数		無回答
d 伝達内容を自分なりに判断し、反応する力	話の内容を受け聞き返す	(2年生) 1.2個	1 0 %	
		(3年生) 1.9個	6 %	

(3) 「聞くことの指導」

ア 「聞くこと」の年間指導計画

学年	学期	単 元 名	時数	単 元 の ね ら い	主 な 学 習 活 動
1	1	どんなふうに聞こえたかな (おとまねごっこ)	4 (2)	いろいろな音の表し方に関心を持ち、終わりまで注意して聞くことができるようにする。(A1, B5)	音当てゲームを通して、身近な音を自分なりに表現することに興味をもつ。 音集めをして、集めた音を自分なりに表現する。 クイズ大会を開き、見つけた音を発表する。
	2	お話をくわしくしよう (わたしのたからもの)	4 (3)	話し手の方を見ながら聞き、カードなどを使って詳しく尋ねることができるようにする。(A1・2, B3・5, C5)	質問カードを使って、対話形式で宝物についてまとめていく。 グループで助言し合いながら宝物発表会の練習をする。 ほかのクラスと合同の宝物発表会を開き、感想を述べ合う。
	3	知りたいことは、聞きたいことは (ものあてゲーム)	(3)	話されたことについて、もっと知りたいことを積極的にたずねることができるようにする。(A1, B3・5, C3・4・5)	ものあてゲームの約束や方法を知る。 詳しく聞き出すための言葉について話し合う。 出題する「もの」の範囲を広げたり、相手を変えたりしながらゲームを楽しむ。
2	1	相手が話したくなる聞き方を (お話をふくらませよう)	4 (3)	相手に共感を示しながら聞くことができるようにする。(A1・2, B3)	ビデオを参考に、1対1のお話が楽しく続くような聞き方について話し合う。 ビデオを参考に、お話の内容をふくらませるような言葉について話し合う。 お話ゲームを通して、より良い聞き方についてまとめる。
	2	大じなことをおとさずに (でんごんゲーム)	(5)	話の大体をつかみ、3W1Hや大事な言葉などをメモすることができるようにする(A1・2, B2・3・4, C2・3, D1・2)	校外学習や集会の練習などについての連絡事項(伝言)をメモに取り、内容を確かめ合う。 ゲーム形式で、メモしたことを基に情報を人に伝える練習をする。 より良い聞き方についてまとめる。
	3	もっと知りたいことは (インタビューにちょうせん！)	6 (4)	即時的に言葉を返しながら知りたい事柄について詳しく聞き出すことができるようにする(A1, B4・5・10, C2・3・4)	お話(会話)とインタビューの類似点、相違点について話し合う。 詳しく聞き出すための言葉(受けて返す言葉)について考え、インタビューの練習をする。 異学年にインタビューをし、分かったことを報告し合う。
3	1	話し手の質問を考えながら聞く(インタビューで友だちのことをたくさん知ろう)	5 (4)	相手のことを、たくさん知るための質問を考え、相手に共感を示しながら聞くことができるようにする。(A1, B4・7, C1)	友達のことをよく知るための質問項目を話し合う。 質問項目に沿ってグループ内でインタビュー活動をする。 モニターの助言を受け、インタビューの内容を広げる。
	2	大切な点に気を付けて聞く(聞き方名人になろう)	(4)	話された内容の中で大切だと思われる点を聞き取り、自分なりの意見や感想をもつことができるようにする。(A1, B7・9・10・14, C1)	総合的な学習の発表報告会 のビデオを参考に、より良い聞き方について話し合う。 発表会 のビデオを基にメモを取り、自分なりのメモの取り方を考える。 発表会 の感想交流場面をリメイクすることを通して、より良い聞き返し方についてまとめる。
	3	共通点や相違点を考えながら聞く(インタビューで友だちのことをくわしく知ろう)	5 (3)	即時的に言葉を返しながら、相手のことを更に詳しく聞き出すことができるようにする。(A1・B4・, C1・2・3)	異学年の友達にインタビューすることを知り、質問項目を話し合う。 モニターの評価活動や即時的な助言を通して更に詳しく聞き出すためのインタビューについて話し合う。 相手の話と自分との共通点や相違点を考えながらインタビューを進め、ビデオに編集する。
4	1	自分の意見や感想を交えながら (聞いてみよう、町のいいところ)	5 (2)	自分たちの住んでいる町について良いところを聞き出すための質問事項を考え、自分の考えと比較しながら聞き出すことができる。(A1・2, B4・7)	町の良いところを聞き出すための質問項目を考え、インタビューのシミュレーションをする。 シミュレーションしたことを生かしながら、インタビューをする。(地域の人にインタビュー) インタビューで聞き出したことを基に更に調べたいことを総合的な学習の時間に生かす。
	2	聞きたいことの要点を押さえて (電話で伝えよう、電話で聞き出そう)	(3)	聞き出したいことの質問を精選し相手の話に応じて、メモを取りながら必要な情報を得ることができる。(A1, B7・8・10・12)	総合的な学習の時間の追求活動で、聞き出したいことの要点をまとめる。 相手意識をもち、要点のメモに沿って電話をする。 電話で分かったことを基に更に調べたいことについて話し合う。
	3	もっと詳しく聞き出したいことは (思いの通じ合う感想交流をしよう)	6 (3)	発表をメモし、話された内容について更に詳しく聞いたり、確かめたりしながらより良い感想交流ができる。(B3・5・8【高】・9【高】、C6・7)	発表者の話の内容を知り、質問の中身を考えておく。 ポスターセッションをして発表者の話をメモし、詳しく聞き出すための質問をする。(感想交流) ポスターセッションを振り返り、話し方、聞き方についての自己評価をする。

5	1	聞きたいことを選んで（ヒーロー・ヒロインに記者会見をしよう）	6 (3)	必要な情報を選んで聞き取り、それについて更に深く聞き出すことができるようにする。(A 1・2, B 9・12・13・14, C 8)	学校生活等で頑張っている人を見つけ、記者会見する際の質問項目を考える。 記者会見をし、より良い聞き出し方について話し合う。
	2	自分なりのメモを（友達のスピーチを聞き合おう）	6 (3)	メモを自分なりに工夫して取り、それを活用することができるようにする。(B 9・15・16・19, C 8)	スピーチをメモを取りながら聞き、大事な点を落とさない聞き方を考える。 更に深く聞くために感想交流をする。 話し合った情報を基にメモを整理し、自分なりのスピーチに再構成する。
	3	友達の意見を参考に（小の未来をデザインしよう）	6 (3)	「小の未来」について、友達の意見を参考に、自分の意見を補強・修正することができる。(B 7・8・9・14・18, C 8・9)	取材したことを基に自分なりの学校の未来像を考える。 パネル・ディスカッションをして学校の未来像を話し合う。 学校の未来像を声のメッセージにして残す。
6	1	考えの同じ点・違う点に気を付けて（学校改善委員会を開こう）	6 (3)	複数の意見の共通点・相違点を考えながら聞き、自分の意見をもつことができるようにする。(A 1・2, B 8・13)	委員会ごとに「今年の重点活動」について話し合う。 各委員会の提案を学級全体で検討する。 検討会を振り返り、話し合いにおけるより良い聞き方についてまとめる。
	2	メモを生かして（語り合おう！ 町の未来）	7 (3)	自分が必要な情報を選んでメモを取り、話し合いに生かすことができるようにする。(B 9・14・16・19, C 9)	グループに分かれ、論題「町はレジャーランドを建てるべきである」に沿った自分たちなりの立論をまとめる。 ディベートをして、お互いの立論や反駁を聞き合い考えを深める。 自分なりの意見をもち発表する。
	3	みんなの考えをまとめて（私たちの思いを下級生に伝えよう）	6 (2)	「下級生に伝えたいこと」について学級で話し合い、学級の意見としてまとめることができる。(A 2, B 6・7・8・10・13・15・18, C 3)	6年間を振り返り、成果と課題をまとめる。 グループや学級全体で「下級生に伝えたいこと」について話し合う。 学級の意見をまとめ、「みんなに伝えたいこと - 年 組声のメッセージ -」を制作する。

単元はすべて開発単元。時数は、話すことを含めた単元全体の時間で、()内が聞くことの取り立て指導の時間。()のみの表示の場合は、聞くこと指導のみの設定。単元のねらいの()内は、聞く力系統表の番号を示す。

イ 指導の具体的な手立て

(ア) 聴体・聴型モデルの作成と活用

児童に聞き方や聞き返し方の視点を与え、聞く活動を活性化するために、聴体・聴型モデルを作成し、授業の中で活用する。この聴体・聴型モデルは教師が作成するが、授業の過程で、児童と話し合いながら付加修正を加え、児童一人一人がこのモデルを基に自分なりの聴体・聴型を作り上げていくことをねらっている。

聴体は、受容（聞き容れる）段階で用い、聞くときに目指すべき動作、表情、視線、態度を具体化したものである。聴型は、聴型Aと聴型Bの2種類に分けられる。聴型Aは、理解（聞き取る）段階で用い、聞き取りを確実なものにするための自己内対話を具体化したものである。聴型Bは、音声表現を伴ったもので受容段階や発信（聞き返す）段階で用いる。受容段階では、聞いた内容に対する共感・発見・驚きなどを、発信段階では、聞いた内容に対する質問・意見・感想などの述べ方をそれぞれ具体化したものである。以下に具体例を記す。

- ・聴体（動作、表情、視線、態度）【聞く力系統表 - A 受容】
うなずく、相づちを打つ、笑顔で聞く、話し手を見る、話を最後まで聞く、など
- ・聴型A（心の中で聞く）【聞く力系統表 - B 理解】
いつの話かな（5W1H）、何の話かな（話題把握）、自分と同じ考えだな（同調）など
- ・聴型B（聞いたことに反応する、聞き返す）【聞く力系統表 - C 発信】
ふ～ん（共感）、なるほど（発見）、へえ～（驚き）、～についてはどうですか（聞き出す）
まとめると～ですね（確認）、私も～に賛成です（賛成）など

(イ) 即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用

話の内容を確実に聞き取り、次の活動に生かすことができるように第1次メモと第1次メモを発展させる第2次メモの2段階を指導する。第1次メモでは、5W1H、大事な言葉、話し手が強調している言葉などをキーワード化してメモさせる。効率的なメモの取り方の指導を通して、即時的な聴解力（話の内容を瞬時に聞き取り理解する力）を高めていく。第2次メモでは、矢印・記号・枠囲み・色などを使って聞いた内容を整理させるとともに、感想や意見を書き加えて、発信段階での話し手との交流場面に生かすことができるようにする。さらに、第2次メモの最終型として、話し手の話を自分なりに再構成していく力を高めていく。

(ウ) モニターによる聞き方の評価活動

聞く活動の状況を客観的に見て、聞き方の良さや改善点を指摘するモニター役の児童を常に学習活

動に位置付ける。モニターを経験させることで、聞くことへの関心を高めるとともに、自分自身で聞き方を良い方向に改善していこうとする態度を養う。モニターは一度に多くのことを見て判断しなければならないので、児童の実態に応じてモニタリングする視点を示し、役割分担をする。

(4) 検証授業（対象学年 - 2年生）（平成13年12月実施，32名）

ア 単元名 大じなことを落とさずに（でんごんゲーム）

イ 単元について

本単元は、大事なことを落とさずに聞き取ることができるようになることを目標としている。そこで、まず、メモの取り方について学習するが、その過程において児童は、「大事なことを考えながら聞く」「聞き取ったことを確かめる」「聞き取れなかったことを尋ねる」等のことについて考えたり、実感したりすることができるであろう。また、いろいろな人との交流や見学等でメモを取る機会も多くなるこの時期の児童にとって、メモの取り方について学習することは意義のあることだと言えよう。さらに、ゲームを取り入れることで、児童は、聞き取ることに関心をもつようになると思われる。

本学級の児童は、意識調査の結果から、話し手を見ながら聞くことや、話を最後まで聞くことが大事だと考えている児童が多く、話を聞くことに対する意識の高さがうかがえる。メモを取ることにについては、意識調査においては低かったものの、聞く力の実態調査においては7割ほどの児童がメモを取っていた。しかし、内容面や分量にはばらつきがあり、また、聞き取ったことについて答える設問では、メモに取ったことを十分には生かしきれていない。

そこで、本単元では、以下のような指導上の工夫をし、聞く力の向上を図る。

(ア) 聴体・聴型モデルの作成と活用

聴体については、特に視線・態度面の定着を図る。聴型は、Aでは内容の正しい聞き取りに関することを、Bでは聞き取ったことの確認に関することを中心に提示し、活用できるようにする。

(イ) 即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用

メモについての学習の入門期ということで、まず、ゲームを通してメモの必要性に気付かせる。メモする内容については、徐々に長くして項目を増やしたり、いろいろな伝言のパターンを用意したりして、それらに応じたメモの取り方を考えさせるようにする。

(ウ) モニターによる聞き方の評価活動

伝言ゲームでの伝言の聞き方について交代でモニタリングさせる。モニタリングする観点は、聴体の態度面と聴型Bの「聞き返し」、「確認」とし、評価や伝え合いの場面での活動の手助けとなるようにモニターカードを用意する。

ウ 単元目標

大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いたり話したりすることができる。
話の大体をつかみ、3W1Hや大事な言葉などをメモしたり、伝えたりすることができる。
伝言を聞く際の、より良い聞き方（メモの取り方）について話し合うことができる。

エ 単元計画（全5時間）

次	指導段階	時	内 容
第1次	メモについての取り立て指導	2	1 伝言ゲームのルールについて知り、学習のねらいをつかむ。 2 簡単なメモの取り方について練習する。
第2次	ゲームや話し合いによる高め合い	1	1 伝言ゲームや話し合い活動を通して、聞く力を高め合う。
第3次	ゲームやモニター活動による習熟	2 本時	1 伝言ゲームにおけるモニターの役割や活動について知る。 2 伝言ゲームやモニター活動を通して、聞き方の習熟を図る。

オ 本時の学習

(ア) 目標

学習したことを生かして、大事なことを落とさずに、聞いたり話したりすることができる。
友達の前で伝言の受け方・伝え方を見ての気付きを伝えることができる。

(イ) 展開 (5 / 5)

学習活動	指導・支援	評価
1 前時までの学習を振り返り、伝言ゲームやメモの取り方、モニタリングの仕方について確認する。 2 本時のめあてをつかむ。	・掲示物等で、前時までの学習を振り返り、伝言ゲームのルールの確認をしたり、メモの取り方やモニタリングの仕方を想起させたりする。 ・本時は、これまでの学習を生かして、大事なことを考えながら、伝言を聞いたり話したりすることを知らせる。	
3 伝言ゲームを行う。 《第1回目》 伝言ゲーム (1・3・5・7班) モニター (2・4・6・8班) モニター活動による気付きの伝え合い 《第2回目》 伝言ゲーム (2・4・6・8班) モニター (1・3・5・7班) モニター活動による気付きの伝え合い 《第3回目》 伝言ゲーム (全体)	・前時までと内容や長さの異なった伝言のパターンで課題文を提示する。 ・伝言ゲームを行うグループとそれをモニタリングするグループとに分けて交替で活動させる。 ・モニター活動は、受ける (聞き方) ・伝える (話し方) の両方について行うようにする。 《モニターの観点》 聞き手： 最後までしっかり聞く 指を折りながら聞く 素早くメモを取る 聞き取ったことを確かめる 分からないときは聞き返す など 話し手： ゆっくり話す 話の枠組を先に言う 最後まではっきり話す 大事なことを繰り返す 大事なことを強調する など ・伝え合いの場面では、モニターカードを基に、自分の言葉で考えさせるとともに、気付きを学級全体にも伝える場を設けたい。 ・本単元の学習をまとめるとともに、自己評価表に記入させ、本時の学習を振り返らせる。	評価(1) 大事なことを落とさずに聞いたり話したりすることができたか。〔観察・ワークシートA〕 評価(2) 友達の伝言の受け方・伝え方を見て、気付きをメモすることができたか〔観察・ワークシートB〕 評価(3) 友達の伝言の受け方・伝え方についての気付きを伝えることができたか〔観察・自己評価表〕
4 本単元の学習のまとめをする。		

(ウ) 授業記録及び考察

伝言ゲームの発言内容及び様子

児童 (B児・C児・D児) , 教師 (T)	…聴体・聴型 () …聴体・聴型の種類 <メモ>…メモを基にした発言 【 】…話し手の留意事項
T	今日の午後のことについて伝えて下さい。【話の枠組を先に言う】5時間目は音楽をします。準備するものは鍵盤ハーモニカとカスタネットです。【ゆっくり・最後まではっきり話す】(最後までしっかり、指を折りながら聞く)
B	もう一度言ってください。(分からないときは聞き返す)
T	今日の午後のことについて伝えて下さい。5時間目は音楽をします。準備するものは鍵盤ハーモニカとカスタネットです。【最後まではっきり話す・大事なことを強調する】(最後までしっかり聞く・素早くメモを取る)
C	5時間目のことですか。(聞き取ったことを確かめる) <メモ>
T	5時間目です。【大事なことを繰り返す】
B	準備するものは鍵盤ハーモニカと何ですか。(聞き取ったことを確かめる) <メモ>
T	カスタネットです。【大事なことを繰り返す】
D	確かめます。伝えることは今日の午後のこと、5時間目は音楽で、準備するものが鍵盤ハーモニカとカスタネットですね。(聞き取ったことを確かめる) <メモ>
T	はい、そうです。

伝言ゲームでは、ほとんどの児童がメモを取ることができており、どのグループでも、伝言が大きく間違っただけで伝えられることはなかった。中には言葉を更に短くしてメモするなど自分なりに工夫を加えた児童も見られ、メモする力の高まりとともに理解の深まりも感じられた。

また、児童は、単元の最初のうちは伝言文の全文を何度も聞き返していたが、キーワードのとらえ方に慣れてきた本時では、分かりにくかった部分やメモできなかった部分に絞って聞き返すようになってきた。さらに、焦点を絞った聞き返しができるようになったことで、時間の余裕もでき、聞き取ったことの確認に意識が向く児童が増えてきた。

モニター活動については、ほとんどの児童がアドバイスを前向きに受け止めることができ、自分の聞き方を客観的に知る手立ての一つとして有効に働いたと考える。また聞き方の様子をモニタリングし合うことで児童は認め合い励まし合う相互評価活動も自然に受け入れることができたようである。また、中には、ゲームの最中にアドバイスの言葉を

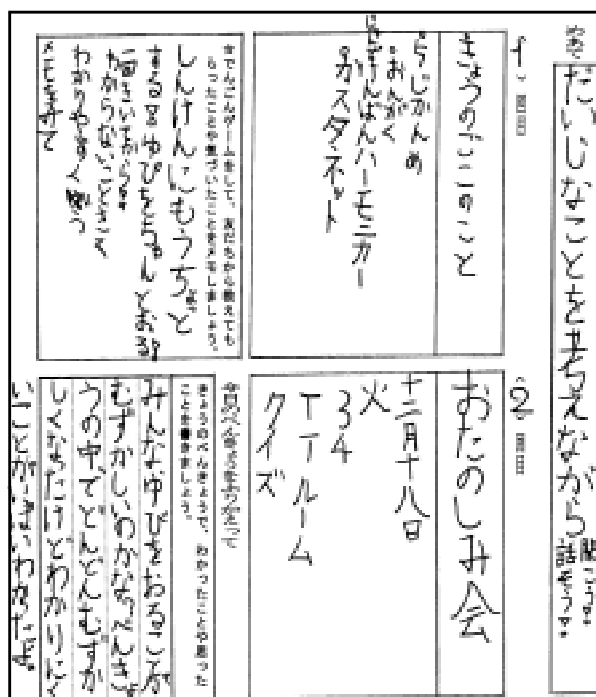


図1 伝言ゲームワークシート

入れる等、モニターとして積極的な介入をする児童も見られた。

カ 全体考察

(ア) 聴体・聴型モデルの作成と活用

本単元では、ゲームとゲームの間に、グループで話し合う時間を設け、どのようにすれば伝言をより良く聞き取ることができるかについて、できるだけ児童の中から考えを出させ、表にまとめていった。指導者としては、意見をまとめたり、児童からは出なかったが本単元で押さえておきたいものを補ったりし、児童が考え出したものについては、班の考えというように札を付けた。これらのことは、話し合い活動の意欲や聞く態度の意識付けにつながったようである。

(イ) 即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用

単元の初めにメモの取り方についての取り立て学習を行い、メモについての理解を図った。その結果、ほとんどの児童が、大事だと言う言葉をキーワード化してメモすることができるようになった。また、取り立て学習、伝言ゲームと回を重ねることで、内容や情報量の異なる伝言文のキーワードのとらえ方やメモの仕方について学習する機会を設ける事ができた。さらに、早く終わった児童の中には、メモに言葉を補っている者も見られ、中・高学年の第2次メモの意識化につながる事ができそうである。

(ウ) モニターによる聞き方の評価活動

単元の後半にモニターによる評価活動を取り入れた。それまでは全グループ一斉に行っていた伝言ゲームを半分ずつ行うようにし、残りの半分をモニターとすることで、全児童が経験できるようにした。モニターカードについては、モニタリングする側だけでなく、伝言ゲームをする側としても、聞く際の留意点をより意識することにつながった。また、モニタリングしたことについて伝え合う場面では、カードを基に、良かった点、気を付ける点について伝えることができ、伝えられる側もそれをメモし今後に生かすよう受け止める児童が多かった。

キ 聞く力の変容

検証授業終了後に、聞くことについての意識調査と聞く力の到達状況調査を行った。「授業中、先生の話聞いて質問しますか」(図2)では、「しない」という回答が減り、ゲームや交流活動を通して聞くことに自信を深め、話を能動的に聞こうとする意識が高まってきたと考えられる。「人の話を聞くときに気を付けていること」では、「メモを取る」という回答が増えた。これは、この時期の児童があまり意識していなかったメモについて、その重要性や生かし方の理解が深まったことやメモが児童にとって身近なものになったことがうかがえる。



図2 児童の意識調査の比較

到達状況調査では、a 伝達内容を正確に聞き取る力の(d) 重要語句の把握に大きな増加が見られた(表2)。このことから、児童がメモの仕方やキーワードのとらえ方を身に付ける上で、本単元でのメモの取り立て指導や伝言ゲームが有効であったと考えられる。

表2 到達状況調査の比較

観点及び調査項目	(人数)	
	授業前	授業後
a 伝達内容を正確に聞き取る力		
(d)重要語句の把握	7	15

(5) 検証授業 (対象学年 - 3年生)(平成12年12月実施, 40名)

- ア 単元名 聞き方名人になろう
- イ 単元について

「聞くこと」の指導では、児童に話を聞く必要性や切実感をもたせるような話材や場の設定が必要である。本単元では、そのような話材や場を総合的な学習の時間に求める。本学級は、1学期から総合的な学習「じまん ふるさと再発見」に取り組んでおり、現在は、各個人や各グループが調べたことを発表する段階に入っている。発表及び感想交流の時間は数時間設定されているが、本単元では、その中の数グループの発表及び感想交流の場を学習材として活用し、非言語、メモの取り方、聞き返し方についての取り立て指導を行う。総合的な学習の時間と関連させながら指導することで、学習意欲を持続・増幅させ、実際の場でも生きる、聞く力の向上を目指す。

意識調査によれば、話を聞くことの重要性については全員が認識していて、大部分の児童が、授業中、自分の話を友達が聞いてくれると答えている。このことから、本学級では、受容(聞き容れる)関係が醸成されているとみられる。しかし、半数の児童が、授業中の質問に関しては消極的である。

このことから、発信(聞き返す)段階の指導、また、聞き返す内容をもつためのメモ指導が重要であると思われる。また、話を聞くときに気を付けている事柄として、「メモを取る」を挙げた児童は5名であった。このことから、メモ指導を充実していく必要がある。また、話を聞くことの良さとし

て、「自分の考えが深まる」を挙げた児童は7名であった。一つの話題について、お互いに感想や意見を述べ合い、聞き合う中で思考を高めていけるような活動を経験させていく必要があると考える。そこで、本単元では、以下のような指導上の工夫をし、聞く力の向上を図った。

(ア) 聴体・聴型モデルの作成と活用

聴体については、特に、視線・態度面で、行動化が図られるよう重点的に指導する。また、聴型については、聴型Bを具体的に提示し、活用できるようにする。

(イ) 即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用

最初はワークシートを用意し、徐々に白紙の用紙へと移行し個性的なメモが取れるようにする。

(ウ) モニターによる聞き方の評価活動

聴体（非言語）、聴型A（情報内容）、聴型B（共感的反応）、聴型B（進行状況）の4点についてモニタリングさせる。評価する際の参考となるようにモニターカードを用意する。また、モニターにはヒントカードを持たせ、聞き手に即時的なアドバイスができるようにしておく。

ウ 単元目標

話された内容の中で大切だと思われる点を聞き取り、自分なりの感想や意見をもつことができる。

矢印や記号を使ったり、感想や意見を書いたりして、自分なりのメモを工夫して取ることができる。

エ 単元計画（全4時間）

次	指導段階	時	内容
第1次	受容（聞き容れる）の段階	1	発表会1のビデオを参考に、より良い聞き方（動作、表情、視線、態度といった非言語面）について話し合う。
第2次	理解（聞き取る：メモ）の段階	2	発表会2のビデオを基にメモを取り、より良いメモの取り方について話し合うとともに、自分なりのメモの取り方について考える。
第3次	発信（聞き返す）の段階	1 本時	発表会3の感想交流場面をリメイク（改造）することを通して、より良い聞き返し方についてまとめる。

オ 本時の学習

(ア) 目標

感想交流の様子をモニタリングし、良い点や改善点について話し合うことによって、より良い聞き返し方ができるようにする。

(イ) 展開（本時4 / 4）

学習活動	指導・支援	評価
1 発表会3のビデオを見て、第1次メモと第2次メモを書く。 2 発表会3の感想交流場面を見て、本時の課題をつかむ。 3 感想交流会をリメイク（改造）する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 場の設定 </div> ・発表者と感想交流グループは感想交流会を行う。 ・モニターは感想交流の様子をモニタリングし、良い点や改善点を指摘する。	・総合的な学習の時間での発表の様子を見せながら第1次メモを書かせる。 ・発表が終わったら、感想や意見を加えた第2次メモを書かせる。 ・感想交流会についての感想（「充実した感想交流会ではなかった」等）を出し合っていく中で、本時の課題「聞き返し方を工夫してより良い感想交流会にしていこう」を明確にするとともに学習意欲を高める。 ・教室を感想交流とモニターのグループに分け、感想交流の様子をモニターが視点別に評価するようにする。 ・感想交流をするグループには、メモを参考にしながら交流するよう助言する。 ・モニターをするグループには、モニタリングする視点を確認させる。 非言語 情報内容 共感的反応 進行状況 ・感想交流が滞っているときは、ヒントカードを提示したり、即時的なアドバイスを促すよう促し、話し合いの進行を図る。 ・指導者も、その都度良い点や改善すべき点について、即時的にアドバイスする。 ・モニターからの感想を発表させ、より良い聞き返し方について話し合いながらまとめさせる。	・大事なことを落とさずメモできたか。（第1次メモ） ・修正・感想を加えることができたか。（第2次メモ） ・モニターは視点別に評価できたか。 （モニターカード：他者評価表） ・モニターは感想交流へのアドバイスができたか。（観察） ・感想交流を視点に沿って振り返ることができたか。（相互評価カード）
4 本時の学習を振り返り、より良い聞き返し方についてまとめる。	・感想交流会の相互評価カードを書かせ、次時の総合的な学習の発表会への意欲をもたせる。	・感想交流を視点に沿って振り返ることができたか。（相互評価カード）

(ウ) 授業記録及び考察

a メモの実際(学習活動1)

A児のメモを見ると第1次メモの段階では、5W1Hやキーワードを押さえたメモが取れていた(図3)。発表をしっかりと最後まで聞き、内容を正確に押さえている。第2次メモの段階では矢印や枠囲みなどを使ってキーワードの関連付けや内容の整理ができていた。また、重要だと思われる言葉にサイドラインが引かれたり、分からない言葉や感想交流で質問したいことなどに「？」の記号や「しつもん」の言葉が付け加えられたり、自分なりの感想が書かれたりしていた。発表内容をただ受動的に聞くだけでなく自分の立場から積極的に聞き取り、理解しようとする姿勢がうかがえる。

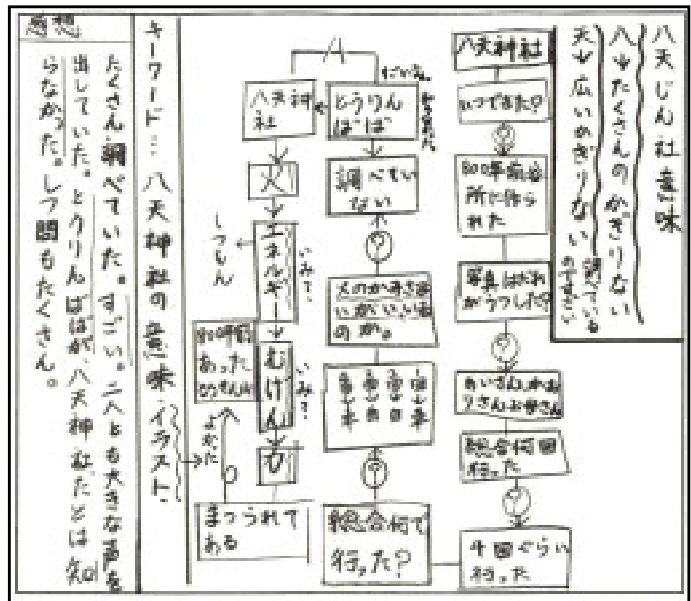


図3 児童の第2次メモの1例(A児)

b 感想交流の実際(学習活動3)

聞き手であるC児はモニター役のM児や教師の即時的な助言や指導によって、うなずきや共感を示す言葉を出すようになった。モニターによる助言が、C児の変容を促し、聞き手を良い方向へ改善している様子が見える。また、D児はB児の発表に対して、表現方法の良さ、発表内容全体に対する評価、今後の改善点の3つの観点から感想を述べている。メモが感想交流に生かされている様子が見える。

感想交流の発言内容及び様子

発表者	(B児), 聞き手	(C児, D児), モニター	(M児), 教師	(T)
.....聴体・聴型.....(.....).....聴体・聴型の種類.....<メモ>.....メモを基にした発言.....				
C1	T	学園までどのようにして行ったのですか。(聞き出す)<メモ>		
B1		車で行きました。		
C2		その写真はどこから撮ったものですか。(聞き出す)		
B2		一人一人の部屋に連れていってもらって撮りました。		
M1		(C児が黙っていたので)うなずきや「そうですか」などの言葉を入れた方が良いと思います。		
T		そうですね。うなずきを入れて聞くところや、「そうですか」などの言葉を相手に返すことなどに気を付けて、もう一度今のところ(C児から)繰り返しやってみましょう。		
C3		<うなずき>(動作)そうですか。(共感)		
C4		インタビューは園長先生に全部聞いたのですか。(聞き出す)<メモ>		
B3		いいえ、園長先生やほかの先生にも聞きました。		
C5		<うなずき>(動作)分かりました。(共感)		
B4		はい。		
D1		感想を言います。(進行)Bさんは、応用紙や写真を使い、分かりやすくまとめてあるので、T学園のことが良く分かりました。もう少し気を付けてほしいことは、もう少しゆっくり言った方が良いということです。そうすればもっと良くなったと思います。(改善点の指摘)<メモ>		

カ 全体考察

(ア) 聴体・聴型モデルの活用

本単元の第1時で取り上げた発表会1(総合的な学習の時間での発表の様子)の感想交流場面と本単元の第4時で取り上げた発表会3の感想交流場面を比較すると、聴体には次のような変容が見られた。

表3 聴体の変容(できるようになった児童の割合),ビデオ3台による分析
発表会1(平成12年12月5日実施),発表会3(平成12年12月19日実施)

	動作	表情	視線	態度
発表会1	2名(5%)	1名(3%)	25名(63%)	20名(50%)
発表会3	15名(38%)	5名(13%)	38名(95%)	36名(90%)

表3から視線や態度については大幅な改善が見られ、学級の9割以上の児童ができるようになっている。動作についてはまだ4割程度、表情についてはまだ1割程度の児童しか到達できていない。今後継続して指導していく必要がある。

表4 聴型の活用(発表会1と発表会3の活用状況),分析:表3と同じ

発表会期日,表3と同じ

	共感	発見	驚き	聞き出す	確認	感想	提案	改善点の指摘
発表会1	2名	0名	0名	8名	2名	1名	0名	2名
発表会3	9名	4名	4名	11名	6名	7名	3名	6名

表4からは受容的な態度や積極的に聞こうとする態度が醸成されつつあることが分かる。また、恣意的な質問ではなく、話を聞き取り疑問点を明らかにしようとしたり、話の内容を更に深めたりするなどの的確で建設的な聞き出しが多くなってきている。

(イ) 即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用

第1次メモでは、5W1Hと数字、箇条書き、キーワードに関する平均記述が大幅に増えている。効率的なメモの取り方が身に付いてきた様子が見える。また、第2次メモでは、矢印や色分け、サイドラインなどの付加の量が学習の都度増えてきた。

(ウ) モニターによる聞き方の評価活動

モニターカードの活用や役割分担を取り入れて、視点を絞ったモニター活動を行うことができたため、聞き手に対する即時的な助言もより具体的で的確なものとなった。また、相手进行评估することによって自分の聞き方も良い方向に改善していこうとする態度も出てきた。

キ 聞く力の変容

本検証授業終了後に、聞くことについての意識調査と聞く力の到達状況調査を行った。意識調査の「授業中、先生の話をしてどのように聞きますか」(図4)では「よく聞く」と回答した児童が8名(20%)から25名(63%)へと大幅に増加している。話を積極的に聞こうとする意欲が高まってきたことが分かる。「授業中、先生の話

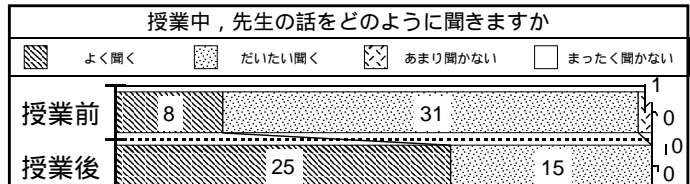


図4 児童の意識調査の比較1

聞いて質問しますか」(図5)では「よくする」と回答した児童が8名(20%)から16名(40%)へと増加している。「ときどきする」と回答した児童15名を含めると31名(78%)の児童が質問に対して前向きになっている。質問に対して抵抗が強かった児童も3名から0名となった。話を受動的に聞くだけではなく、積極的に聞き返して理解を深めようとする児童が着実に増加している。到達状況調査(表5)では、a伝達内容を正確に聞き取る力の(d)重要語句の把握が、18名(45%)から29名(73%)へと大きく増加している。これは、メモ指導などを通して、児童がキーワードに目を向けるようになったこと、大事な言葉に線を引くなどの工夫をして、情報を価値付け、整理することができるようになったことなどの理由が考えられる。b伝達内容を自分の立場を基に聞き取る力では、無回答が(a)14名から6名へ、(b)12名から6名へと減少し適切に回答することのできる児童が増えている。話を漠然と聞くのではなく、自分と比べながら聞き取る力が少しずつ身に付いてきていることが分かる。d伝達内容を自分なりに判断し、反応する力では、平均質問数が1.9個から3.8個へと増加している。積極的に聞き返す力が着実に付いてきたことが分かる。

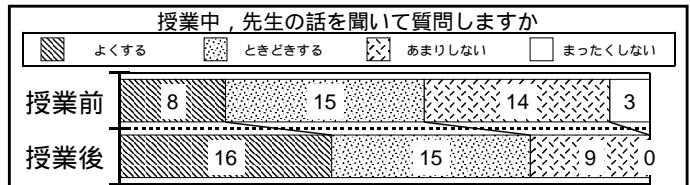


図5 児童の意識調査の比較2

表5 到達状況調査の比較

観点及び調査項目		(人数)		
		授業前	授業後	
a	伝達内容を正確に聞き取る力			
(d)	重要語句の把握	18	29	
b	伝達内容を自分の立場を基に聞き取る力			
(a)	話の内容との類似点	適切な回答	25	33
		無回答	14	6
		不適切な回答	1	1
(b)	話の内容との相違点	適切な回答	28	34
		無回答	12	6
		不適切な回答	0	0
d	伝達内容を自分なりに判断し、反応する力	平均質問数	1.9個	3.8個
		無回答	2	1

7 研究のまとめと課題

(1) 研究のまとめ

ア 学習意欲を喚起する単元の開発及び聞き手と話し手が相互に交流する場の設定

児童の学習意欲の喚起及び聞く力の確実な定着をねらいとして単元開発を行い、6年間を見通した年間指導計画を作成した。単元開発及び年間指導計画作成に当たっては、聞く力を具体化した「聞く力系統表」(本研究委員会作成)との対応を図り、聞く力が段階的・系統的に身に付くようにした。また、児童の積極的な聞き取りを促すために、聞き手と話し手が相互に交流する場を単元の中に位置

付けた。検証授業では、伝言ゲーム（2年生）、感想交流場面（3年生）がそれに当たる。このことにより、聞く必要性や聞くことへの切実感が生まれたことで、聞く活動が活性化し、意欲的に聞こうとする姿が見られるようになった。

イ 確実な聞き取りと進んで聞こうとする態度の育成

本研究では、聴体・聴型モデルの作成と活用、即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用、モニターによる聞き方の評価活動の3つを手立てとして用いた。

聴体・聴型モデルの作成と活用では、聞き方を具体的な言葉として表し、児童に提示した。どのように聞けばよいかという聞く方法が分かったことで、提示された聴体・聴型モデルを参考に進んで聞いたり、聞き返したりして正確な聞き取りができるようになった。

即時的な聴解力を高めるキーワードメモの活用では、第1次メモと第2次メモの2段階を設定した。第1次メモでは、5W1Hを押さえて箇条書きでメモを取ることができるようになり、聞き取りも確実になってきた。特に低学年では、聞きながらメモを取ると話の全体が聞けないので、聞いた後に思い出しながらメモを取るようにしたところ、全体的な聞き返しや聞き落としが減り、自分に本当に必要なことについての聞き返しや聞き取りができるようになってきた。第2次メモでは、聞いた内容に自分なりの感想や意見を付け加えることができるようになり、話を自分の立場から積極的に聞こうとする姿勢が見られるようになってきた。

モニターによる聞き方の評価活動では、自分の聞き方を客観視することができるようになり、また、聞き手にその良さや改善点を具体的に的確に助言することができるようになるなど、相手に対する意識が高まり、学習意欲や態度が向上した。

(2) 今後の課題

ア 年間指導計画の実践と検証を行うとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を関連させた年間指導計画の作成

イ 一人一人に応じた個性的なメモの取り方とその評価及び高学年における再構成メモの単元開発

ウ 低学年のモニターによる評価活動を活性化する手立ての工夫

エ 国語科で取り組んだ「聞く力」が他教科や「総合的な学習の時間」で活用できているかについての検証

《研究委員》

西山 正治	佐賀県教育センター研修員	平成13年度
宮原 久直	佐賀県教育センター研修員	平成12年度
倉崎恵美子	塩田町立五町田小学校教諭	平成12～13年度
原 良一	鳥栖市立若葉小学校教諭	平成12～13年度

《引用文献》

- (1) 高橋 俊三編著 『聞くことの指導』 1995年 明治図書 pp210 - 211
- (2) 森久保安美 『聞く力を育て生かす国語教室』 1996年 明治図書 p23 の再引用
- (3) 森久保安美 『話しことば教育の実際』 1997年 東洋館出版社 pp138 - 139
- (4) 高橋 俊三編 『音声言語指導大事典』 1999年 明治図書 p71
- (5) 文部省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 平成11年 文部省 p65
- (6) 高橋 俊三編 『音声言語指導大事典』 1999年 明治図書 p24
- (7) 森久保安美 『聞く力を育て生かす国語教室』 1996年 明治図書 pp18 - 19

《参考文献》

- ・ 羽田 紘一 『話せる子が育つ教室』 『児童心理』 1996年 2号 金子書房
- ・ 安 直哉 『聞くことと話すことの教育学』 1996年 東洋館出版社
- ・ 瀬川 榮志編著 『21世紀の国語科授業を創る』 1997年 光文書院
- ・ 瀬川 榮志監修 『話し言葉の基礎「基本聴型・基本話型」の教材開発』 1996年 明治図書
- ・ 村松 賢一 『いま求められるコミュニケーション能力』 1998年 明治図書
- ・ 村松 賢一 『対話能力を育む話すこと・聞くことの学習 - 理論と実践 - 』 2001年 明治図書